

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26221306	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	メモリーB細胞の形成と維持を支える内的・外的メカニズム	研究代表者 (所属・職) <small>(平成31年3月現在)</small>	黒崎 知博 (大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・特任教授 (常勤))

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、「免疫記憶」の機能を担うメモリーB細胞の形成と維持を支える機序の解明を目指すものである。モデルマウスを使って胚中心B細胞からメモリーB細胞への分化・選択機構を明らかにするなど、当初計画が具体的で目標も明確であったため、ほとんどの課題について着実に成果が上がっている。一部遅れが見られる課題についても問題点は明確であり、その具体的な解決策が策定されている。研究成果は国際的に著名な学術雑誌に数多く報告されており、メディアへの公表にも努めている。現時点において研究は順調に進展しており、今後も期待通りの成果が見込まれる。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	「免疫記憶」の機能を担うメモリーB細胞の形成と維持を支える分子基盤の解明を目指し、1) 胚中心B細胞からメモリーB細胞・プラズマ細胞への分化を決定する機構、2) メモリーB細胞維持のための因子の同定、3) メモリーB細胞の二次応答の迅速性を支えるメカニズム、4) インフルエンザ再感染モデルにおけるメモリーB細胞の機能的重要性の実証など、多くの研究成果を上げており、その研究内容は高く評価できる。